

土佐希望の家通信

＜発行＞重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131／FAX 088(863)2133／
http://www.tosakibou.jp Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY LIFE
家族の窓
No.14
公文香奈様
3病棟
あざみ



私は今、30年の思い出と仲良く暮らしています。

主人との30年。そして、2人の子供との30年。特に障害を抱えた娘との歳月は、たいへん厳しいものでした。努力を重ねても報われることはなく、将来の見えない不安で何度も挫けてしまう私を主人が懸命に支え、幼いなりに状況を悟った息子は片時も私から離れようとしなかった事など、今となっては全てが懐かしい思い出です。

私達がこもってはいけないうと、週末には決まったように海や山に出かけ、たくさん楽しい思い出を作ってくれた優しい主人は、3年前、病気で帰らぬ人となってしまいました。障害の娘を溺愛し、家族の為に精一杯尽くしてくれた父親に、もう二度と再び会わせてやれないかと思うと胸が痛み、全く想像出来なかったこの現実が、30年で一番悲しい思い出になってしまったことは逃れようのない事実です。

心の支えである息子は現在広島で生活し、そして娘は、終の住処となる希望の家に入所することとなり、まもなく1年になります。あざみ病棟にもすっかり慣れ、週に一度の帰省も最近ではあまりうれしくないのか以前ほど喜ぶこともなく与えられた境遇を静かに受け止めているそんな感じです。

一人残された私は、年離れた両親の待つ窪川の実家に帰ることが多くなりました。実家では6羽の合鴨と池の鯉たちが、何事も無かったかのように泳いで迎えてくれ、見ているだけで癒されることが、今の私には何ともありがたいのです。

振り返ればこの30年、大変ではあったけど、決して不幸ではなかった事に改めて感謝し、障害の子供を持つことで得た人生の教訓を残りの人生に活かしていければ幸いです。

公文 知恵



ひまわりの病棟 餅つき



利用者の皆さんとたのしくお餅をつきました

新年のごあいさつ



平成23年1月
理事長
門田正坦

政治の混乱、経済の停滞、雇用不安、社会活力の減退など、昨年は何かと不安がつづる1年であった上に、年末には、いわゆる「つなぎ法案」の成立により児童福祉法が改正され、昭和42年以来続いて参りました「重症心身障害児施設」の名称が消えることになるという、私たちに与りましては大変大きな出来事がありました。児童福祉法は改正されましたが、重症心身障害児(者)に関する今後の制度の詳細はまだ見えてきません。私たちの生活や重症心身障害児(者)を取り巻く環境は、まさに混沌としています。

こうした状況の中、土佐希望の家は、昨年、創立40周年の節目を迎え、今年は、次の50周年に向けて、新たな10年のスタートを切りました。ここ数年来課題となつて参りました医師の確保は、長博雪施設長に着任いただくことにより落ち着いてはおりますものの、全国的な医師不足の状況には変わりがなく、今後とも課題であります。また、施設の拡張や在宅支援の充実など、取り組みたい課題はたくさんありますが、制度の先行きが不透明ですので、新たな取り組みがしにくい状況です。

私の仕事

(12)

約四十年の雑感



事務部 参事 西岡 勉

縁ありまして、年越山の土佐希望の家を訪問し、事務職員の面接を受けてから40年の歳月が流れました。手書き文書時代の見覚えのある字が今も資料に残っているのを見つけるとなつかしい反面、下手な字が今後も化石化されて資料に残ると思うと複雑な気持ちになります。手書きから次に公文書のタイプライターによる文書作成は、一字でも間違えば元の木阿弥、また最初から打ち直し、何度打ち直したとか、ただ、逆さの文字を見つけての作業を経たので、新聞を逆さにして読む技も身につけていました。

その後、今では考えられないほどの高価なワープロの導入、間違っても直せるし、挿入も出来るし、当時は画期的でした。まもなくIT時代に突入し、パソコンの導入。エクセル・ワードのソフトがあれば十分なのに同じ機能を持つ一太郎・ロータスもインストールするといった、ここでも笑い話にもならない知識のなさを暴露したものです。それでも急な流れは、止まることはありません。病院報告、医療請求、介護給付費、退職手続きなど、紙ベースでやってきた事務業務も、今ではインターネットによるオンラインでの手続き、報告、請求と大きく様変わりです。

振り返ってみれば、流れに乗り遅れないように必死で歩んだ約40年でした。これからも希望の家を見守りながら残りの人生を歩んでいきたいと思っています。

このため、今年は、職員の能力の一層の向上や、施設の部分的な改修、医師の安定的な確保など、今の枠組みの中で出来ることに取り組むことにより、不安定な社会情勢の中にありましても、利用者や保護者の皆さんが不安を抱くことなく、安心して生活をしていただけるように、しっかりとした経営を続けていきたいと思っています。

関係の皆様には、引き続きご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げますとともに、今年がよい1年でありますように祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

2011年新年会

1月3日、病棟での新年会が行われました。今年も利用者の皆様にお年玉が配られ、獅子舞も元気に踊りました！



11月厚意

【寄付金・寄付物品】

小林豊様 北村忠司様 高知競輪競馬内保安労働組合様 四国東通様 高知競輪競馬報道協会様 高知友の会様 山崎大様 大成サービズ(株)四国支社様 大篠社会福祉協議会様 中四国デイリースポーツ社高知支社様 日本基督教団南国教会様 高知放送様 サンコール様 高知競輪売店・食堂組合様 福ちゃん出版株式会社様 井上出版印刷社様 田村光昭様 (有)城南広報様 高知競輪競馬労働組合様 日本トーター株式会社様 高知競輪場募金箱様 日本自転車競技会中四国支部様 日本自転車競技会中四国支部第4競技実施チーム職員・従業員一同様 池尻浩一様 高知市公営事業課職員一同様 南国サテライト場内募金箱様 岡本実子様 高知広告センター様 日本キリスト教団高知教会様 井沖昭夫様 安藤俊樹様 丸岡浄子様 若志会様 高知県園芸農業協同組合連合会様 第一生命労働組合高知支部様 財団法人みずほ福祉助成財団様 山野上様 和田子様

ありがとうございました。
今後ともよろしくお願いいたします

☆ 編集後記 ☆

長施設長が歴史好きであることは知っていましたが、これほど詳しいとは驚きでした。南国のこの辺りもいろいろ歴史があるんですね。初めて知ることばかりです。



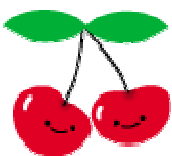
2病棟東棟(たんぽぽ)朝の会

2病棟では、本年度より西棟(すみれ)で朝の会を実施してきました。短時間ですが、生活にメリハリをつけ、「今日も1日元気で楽しくやりましょう」と全員がホールに集まり、1日の予定を発表したり、歌を歌ったりしています。

東棟(たんぽぽ)の担当療育員は1名ですが、師長のキモ入りで看護師の協力も得て、6月より東棟でも朝の会を実施しています。

10時45分になると、西棟より療育員1名が応援に駆けつけ、参加できる看護師も一緒に楽しい1日の始まりの時間が持てるようになりました。

信清 美智子



2病棟(東・西)朝の会のようす



センタークリスマス会



十二月十一日、在宅支援センタークリスマス会をホールで行いました。職員によるハンドベルではじまり、次はフライデー・ウィンドアンサンブルの演奏。大音量の迫力ある演奏に皆さんノリノリ。クリスマスソングあり、童謡あり、流行曲AKB48の「会いたかった」もとても喜んでいました。

その後は、腹話術ケンちゃん遊びにきてくれ、土佐の昔話も話してくれ、タイムスリップした時間でした。昼食は料理組合の方が皆様の前で調理してくれました。刺身を切ったり、握り寿司を握ったり、プロの腕前を見せて頂き、おいしい料理を頂きました。午後からはダーツショー！ダーツ体験をしました。体験だったので利用者の兄弟さんにも大人気でした。そして、センター職員による劇をしました。皆さんとても笑顔で穏やかな表情が印象的でした。最後にサンタさんが登場！プレゼントを渡し、そして「ボランティアさんありがとう」と言い終わりました。十二月にまた皆さんに喜んでもらえる様なクリスマス会ができればいいなと思っています。



大坪 真紀

やわらかい介護を目指して

3病棟東 療育主任 北岡伸也

私達が介護を行う上で大切なことの1つに「負担を掛けない」があります。利用者の皆様にはもちろんですが、介護者もです。療育部では昨年度より県社協主催の介護方法を見直す研修を交代で受講してきました。この研修の中で、日々の介護の中で意識が薄れていた人の体の動きの大切さを再認識しました。人は体を動かす時、体重の移動をしながら行います。この体重移動を介護に利用することで、する側、される側双方の負担を減らすことが出来ます。力任せの介護は利用者の拘縮や緊張を強めるなどの悪影響を与えたり、介護者の腰痛を引き起こします。

そこで、研修で習った介護技術を活かすために、今年度から施設内での介護技術研修を立ち上げました。復習すると共に、利用者の皆様一人一人に対する介護方法を見直し改善し、各病棟全体で取り組むことを目的としています。毎月一回各病棟より事例を持ち寄り、理学療法士のアドバイスも貰いながら、やさしい介護を目指し皆で考え、実践しています。利用者及び保護者の皆様も「こんな介護をされると辛い、辛そう」、「この姿勢を何とかして欲しい」、「もっといい方法はない?」など気になることがあれば些細なことでも、お声を掛けてください。



土佐希望の家の周辺の歴史(2)

施設長 長博雪

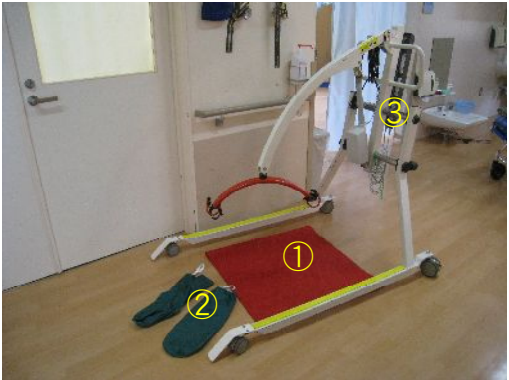
現在、土佐希望の家の北側では、国道195号線のバイパス工事が断続的に行われています。着工は早かったのですが、なかなか完成しません。

道路工事の実施にさきだち、工事地域の遺跡発掘調査が行われました。そこで、「官道」の遺跡が見つかっています。

「官道」というのは何でしょう。律令時代、国司や官人が利用した国衙等の役所と都とを結ぶ道路のことです。全国で整備されました。原則、6メートルの幅で両側に排水の溝を有する。真つすぐ伸びた直線道路。平均3〜4里(12〜16km)おきに、駅家(うまや)という伝令連絡の為の馬の準備と、宿泊を兼ねた施設が設置されていました。もちろん、官人専用。いわば、古代のハイウェイ(原則、徒歩だが)とでもいえましょう。

平安時代に土佐国司としてやってきた紀貫之さんもしっかりと利用したであろう官道です。でも、律令制度がしだいに崩れ荘園があらちこにでき、官道の意義はしだいに薄れてきました。道路の維持は常に整備が必要ですが、しだいに行われなくなり、草が生えて埋まり、やがてどこが官道であったか解らなくなってしまうました。

高知県埋蔵文化財センターが南国市にあります。私がたまたまそこを通った時、立ち寄って頂いてきた報告書に記載されていました。



病棟で使用している①移座えもん ②マルチグローブ③介護リフト

「負担をかけない介護」のもう一つは福祉用具の活用です。

①写真の赤色のシートは移座えもん。褥瘡の原因の一つに摩擦があります。このシートは筒状になっておりシート自体が滑り体への摩擦をなくします。寝具上や、車椅子上でずれた体を直すときなどに活躍します。

②緑色のものはマルチグローブ。これは手にはめて使います。体重がかかっているところにはなかなか手が入りません。このグローブは滑りやすい素材なのでこれを使えば楽に入ります。褥瘡の原因の圧力を取り除くことができます。また車椅子上でめくれた服を直すときなどにも役立ちます。

③最後は介護リフトです。日常の様々な場面でも利用者を安全安心に、しかも介護者にとつても安楽に移乗できます。リフトを使えば介護者は一人でも、体格差に関係なく移乗介護することが出来ます。天井にリフターがあるものや在宅などでは備え付けるタイプもあります。気になることがあればどんなことでも相談してください。



「埋文こうち」第22号より 「古代の道路遺構」

報告書に記載された「官道」の遺跡。どこにあるのだろう。地図をみると「土佐希望の家」のすぐ北東の位置です。報告書の写真では官道のすぐそばには、特徴的な民家が写っていました。

歩いて工事途中の道路へ。「あったあった、この家だ」。その民家を発見。写真を撮って確かめてみました。携帯電話のGPS機能で北緯・東経の位置確認。官道はどちらに伸びているのだろう。どうやら、まっすぐ延ばすと土佐国分寺のすぐ東側に至るらしい。南側は、篠原から年越山の切通しの坂道です。

これから先は全く私の推察です。まっすぐ延長すると国分川の堤防にぶつかるようです。現在は国分川にはいくつもの橋が架かっています。昔はなかったとのこと。唯一、川を渡る浅瀬が、「地蔵渡し」の個所だけだったと、「地蔵渡し」の説明板にも書いてあります。



年越山の横の切通し

病棟クリスマス会・年會



もみの木寄贈



毎年クリスマスの時期にいただいているもみの木。今年もありがとうございました。